



将来に向けた人材確保はトラック業界全体が抱える大きなテーマだが、「女性の労働力をもっと活用すべき」との声が上がり始めている。宅配事業を行う物流大手は女性の採用を積極的に進めており、コンテナ輸送やタンクカーの分野でも女性ドライバーが徐々に増えつつある。女性ならではの丁寧さや気配りを評価する荷主企業が多い一方で、中小トラック運送会社にとって女性活用は課題も少なくない。女性ドライバーが活躍している企業に聞いた。(星野誠)

女性活用へ環境整備

「子供の頃、自家用車のハンドルを握る父親を見て、クルマの運転に興味を持った。大きな車体を軽々と操るトラックドライバーに憧れ、19歳で大型運転免許を取得した」と振り返るのは、福貨通運(佐々木一成社長、福井市)の松田尚子氏。

入社12年目だが、ドライバーのキャリアは20年になる。けん引免許、危険物、高圧ガスなどの資格を持ち、前の会社ではタンクローリー車でガソリンを運んでいた。現在は、主に高圧ガスのトレーラ輸送を担当。身長153cmの華奢(きゃしゃ)な体で、重たい高圧ガスのホースを扱うため、エアロピクスやヨガで体づくりにも励んでいる。

「大好きなトレーラを毎日運転できることが幸せ」と松田氏。10年間無事故無違反を継続し昨年12月、全日本トラック協会(星野良三会長)から銀十字章を受けた。

藤井ふぢ美常務も「ルールをしっかり守り、タンクの小さな傷ひとつでも報告を怠らないため、顧客の評判が良い。伝票を濡らさない工夫を提案し、喜ばれたこともある。女性ならではの細かい気配りが仕事に生きている」と

評価する。

子供はいないが、夫が病氣療養中のため、1人で家計を支えている。帰宅すれば家事に追われる毎日だが、「ひとたびハンドルを握れば、つらいことも忘れる。私のようにクルマが大好きな女性はたくさんいるはず。トラック業界で働く仲間がもっと増えればうれしい」と話す。

2012年の運転免許統計(警察庁)によれば、同年末の運転免許保有者数は8148万7846人。男女別構成比は男性55.8%、女性44.2%となっている。普通免許、8ト限定を含む中型免許も全体の構成比に近いが、大型免許になると、女性が占める割合は男性の30分の1に激減してしまう。

しかし、大型免許保有者数の推移を見ると、男性が年々3万人単位で減っているのに対し、女性は400人のペースで微増を続けている。新規取得者は運送業界で働く女性が多いものの、中には「まずは資格を」という未経験者もいる。女性の社会進出が各種資格への関心につながり、中型や大型の免許取得を後押ししていると考えてよさそうだ。

第1種大型免許保有者の推移

(単位、人)

| | 08年 | 09年 | 10年 | 11年 | 12年 |
|----|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 男性 | 4,431,670 | 4,400,294 | 4,361,928 | 4,333,432 | 4,307,750 |
| 女性 | 132,096 | 132,492 | 132,824 | 133,256 | 133,703 |
| 計 | 4,563,766 | 4,532,786 | 4,494,752 | 4,466,688 | 4,441,453 |

出所：警察庁「2012年運転免許統計」より

労働力不足を考へる



愛車のトレーラを背に笑顔を見せる福貨通運の松田氏

適正運賃収受、本腰で

トラック業界全体を見ると、女性の積極活用が難しい品目や業態もある。自動車部品が主力の愛東運輸(村山明子社長、愛知県刈谷市)では現在、3人の女性ドライバーが活躍。2ト車と4ト車で部品輸送を行っている。

村山社長は「たとえフォークリフトを使うにしても、押したり引いたり力仕事は必ず出てくる。自動車部品などは、パワーのある男性の方が有利。我が社では、女性にできる仕事を可能な範囲でやってもらっている。3人は皆、優秀で人間的にも素晴らしいが、必ずしも女性だけを積極的に採用しているわけではない」と言う。

「トラック業界全体の人材不足を考えれば、女性も活用しないと労働力が足りないのは分かる。ただ、男性と女性には違った特性がある。優秀ではなく、それぞれの良さを生かすべきだ。無理に男性と同じ仕事をさせる必要はない」

三重近物通運(佐藤秀夫社長、三重県伊勢市)でも40代の女性ドライバーが元気に働いているが、仕事の内容には配慮しているという。「大型トラックに乗るケースがあり、手積み手下ろしも頑張ってくれるが、基本的にはリフト主体の作業になる。長距離もさせられない。我が社の仕事で、女性に頼めるものは30%程度ではないか」(馬場宣和取締役)

更に、「人材確保が難しくなる中、新戦力で女性が来てくれるなら歓迎したい。ただ、受け入れる我々の側も、女性ドライバーのできる仕事を、営業努力と現場の工夫で増やしていく必要がある」と強調する。

女性の力を補うハード面での対策を望む声もある。馬場取締役は「他社の女性ドライバーが乗る大型トラックに、自動式の『アオリ』が付いていたのを見たことがある。わざわざ特注したらしく、経営者の配慮に感心した」と話す。藤井氏も「荷役作業を補助する『パワースーツ』のようなものがあれば、より女性が働きやすくなる。官民挙げて本格的に研究してもよいのでは」と提言する。

トラック運送業界は長い間、「男の世界」と呼ばれてきた。女性が安心して働けるよう、トイレや更衣室の拡充や、産休制度など労働環境の整備が求められる。

加えて、給与面の魅力も不可欠だ。仮に、宅配便の女性ドライバーをスカウトするにしても、トラックが大きくなるだけで収入があまり変わらないなら、断られてしまうだろう。

村山氏は「男女関係なく、まずは待遇を改善しないとドライバーは来ない。プロの仕事にふさわしい対価を支払うため、業界一丸で適正運賃収受に本腰を入れる必要がある。賃金が上がれば、男女ともに優秀な人材が集まるのではないかとみている」。

福貨通運の松田氏は毎日、同じ時間に同じ場所を走行する。いつも道路脇から手を振る老人が、ある日、会社に「皆さんで食べて欲しい」と果物を届けてくれた。愛東運輸では、休憩時間など女性ドライバーを中心に談笑の輪が広がっているという。

労働環境を整備し、魅力を創出するのは容易ではない。しかし、女性が頑張っている運送会社に良い風が吹いているのは事実。中田商事(三重県伊賀市)の中田純一社長は「女性が元気に働いている会社ほど顧客や地域社会からの信用度が高くなる。長い目で見て女性の活用は、性別や年齢に関係なく、優れた人材の確保につながるのではないかと話している」。

物流業界の、明日のために。

ご感想や自らの体験談を、
ファクシミリ(03-3221-2348)、手紙・はがき、
電子メール(reader@logistics.jp)で
お寄せください。

物流ニッポン新聞社「キャンペーン」取材班

新聞社網領

LOGISTICS NIPPON 物流ニッポン新聞社

1. 物流業界の全国専門紙
地域に密着した紙面づくりを通じ、全国ネットワークの物流総合専門紙を目指す。
1. 物流業界の地位向上
報道の本旨に従い、公正、迅速かつ正確なニュースを、読者各位に提供する。もって、社会的責務の一端を遂行するとともに、物流業界の発展、向上に寄与する。
1. 人間成長の経営
仕事をするを通じ、職業人としてはもちろんのこと、人間としても成長を図り、企業の成長とともに、社員の成長をも目指すことを、経営の基本とする。

記者理念

「新聞は 記事に責任 主張に誇り」
「報道に 強さ 確かさ あたかき」
記者は 「誇り」とともに、
不断の「自戒」を忘れてはならない。